

令和4年度 江戸川区立第四葛西小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	○豊かに育つ四葛西っ子 ・元気な子 ・やさしい子 ・よく考える子 ・やりぬく子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○家庭・地域に開き、共に歩む学校 ○友達と共に学級、学年、学校の文化を創り、発展させていく児童 ○組織的に教育活動を推進しつつ、自らの向上を図る教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p><成果>新学習指導要領の全面実施に伴い、採択された新教科書に沿って学習を進め、教職員全体で3観点評価のための情報交換をしたり、授業改善に向けて研究したりすることができた。また、学校教育目標や学校経営方針の具現化をめざし、校務分掌組織を見直し、全教職員で推進した。区教育実践推進校として教科担任制の効果的な運用について研究し、大きな手応えを感じた。</p> <p><課題>引き続き、児童の実態および教育的課題を的確に把握し、新学習指導要領を踏まえて具体的な活動を設定していく必要がある。</p>		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実 ・教科担任制の効果的な運用 ・一人一台端末を活用した授業の改善	外部委託による放課後補習教室の推進 全国学力調査の到達目標校内研の充実(年間7回と、報告会) Teamsの活用、学習履歴の蓄積	C層児童の基礎基本の定着の基礎的な学力の向上	A	A	○第2～6学年への放課後補習教室の実施、年度途中での改善 ○学力調査での結果 ○校内研究の成果を発表(1月31日) ●eライブラリの活用	A	○児童が活用する機会が多いことや、その内容に驚かされている。端末操作はよくできるが、モラルの教育も継続してほしい。	・補習教室担当者との連携 ・校内研究の充実
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実(読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめて表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	図書館の整備 読書活動への取り組み	図書館での読書活動および探究的な学習	B	A	○第1～3学年での朝の読み聞かせ(保護者による) ○おぼけのアッチの本だなの巡回展示と作家コーナーの更新 ●蔵書整備	A	○読み聞かせを再開できたことで、児童の喜ぶ姿が見られた。今後も継続してほしい。	・図書館の整備。 ・保護者ボランティアとの連携
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	休み時間の全校運動遊び…週1回 体力テストの実施	集団運動遊びの取り組み 体力テスト結果の向上	A	A	○全校での運動時間確保 ○教員の実技研修、伝達講習会 ●活動のバリエーション	A	○運動に親しむ機会をこれからも増やしてほしい。	・パワーアップタイムの取り組み
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	外国語専科の配置 ALTとの授業・・・外国語(年間70h)、外国語活動(年間35h)	児童の基礎的な学力の向上とコミュニケーション能力の向上	B	B	○ALTとの連携 ○タブレット端末の活用 ○校舎内階段掲示の全面リニューアル	B	○楽しく学ぶ機会を継続してほしい。	・EnglishRoomの整備
	健全育成に向けた取組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームやスクールソーシャルワーカー、生活指導連絡協議会の活用	研修会の実施 学期1回	実施回数および研修会への参加	A	B	○挨拶、見守りの強化 ○SSWとの連携 ○登下校パトロールの実施 ○生活指導主任からの伝達講習	B	○SNSの問題は重要だと思われる。取り組んでほしい。	・組織的な対応力の向上のための研修
特別支援教育の充実	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	特別支援委員会 毎月研修会実施 学期1回	実施回数および研修会への参加	A	A	○巡回指導教員との情報共有 ○副籍交流の実施 ○エンカレッジルーム、多目的室の整備	B	○ダイバーシティの視点を全校に広めてほしい。	・巡回心理士との連携
	たんぼぼ学級との連携	・弱視学級と連携した指導の充実と弱視教育への理解	弱視障害理解教育実施(第3学年)	在籍児童への理解向上	B	B	○第3学年児童への弱視障害理解授業	B	○継続してほしい。	・教育活動全体を通しての理解教育
教員の資質向上	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	校内研修・・・年間3回 LINES授業支援・・・各学級1回	ICTによる授業実践	A	A	○タブレット端末操作や、情報モラル研修の実施 ●研修の継続、情報の更新	A	○Teams活用による家庭連絡はよい。	・講義と実践的な研修会
	教科担任制の先行実施	江戸川区教育課題実践推進校として教科担任制に取り組み、授業の充実を図る。	公開授業、発表・・・年間1回 校内研究・・・年間7回	研究授業、公開授業への取り組み	A	A	○校内研究会の充実 ○各方面からの視察対応	A	○より良い授業を継続してほしい。	・更なる授業の質の向上のための研究 ・働き方改革への効果
特色ある教育の展開	グリーンアドベンチャー	様々な樹木とのかかわりを通しての異学年集団交流	異学年集団・・・年間6回 学年・・・年間2回	異学年交流による活動	A	A	○異学年交流 ●内容の充実	A	○子供たちが楽しみにしている。PTAも協力したい。	・樹木の選定や管理の充実化
	地域連携教育の推進	地域を愛する心、伝統を受け継ぐ心をもった「えどがわ大好き」な児童の育成	海苔すき体験(第3学年) 米づくり等の体験(第5学年)	学年の総合的な学習の時間	A	A	○米作り体験 ○海苔すき体験	A	○コロナ後の連携の在り方については、地域でも検討中である。	・地域協力者との更なる連携